

文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）」

令和2年度 実践報告 3年次

特別支援学校における教科等の学習への図書館 機能の活用と読書活動の充実に関する研究



群馬大学共同教育学部附属特別支援学校

まえがき

群馬大学共同教育学部附属特別支援学校では、文部科学省からの委託事業「特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）」に取り組んできました。特別支援学校における図書館機能の利活用や読書活動の推進が、具体的な活動です。

今年度は、公立図書館との連携を軸に、授業実践における図書の利活用を推進したり、校内の読書環境の一層の充実を試みたりしています。本報告書をご覧ください、ご意見をいただければ幸いです。

群馬県立図書館をはじめとした公立図書館の方々、研究協力者、附属小学校等、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

群馬大学共同教育学部附属特別支援学校長 藤森 健太郎



目次



まえがき

1	目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	実践研究の概要について・・・・・・・・・・・・・・・・	2～3
3	今年度の授業実践	
	① 「おてがみ どうぞ」・・・・・・・・・・・・・・・・	5～7
	② 「げんきな からだ」・・・・・・・・・・・・・・・・	8～10
	③ 「声に出して読もう」・・・・・・・・・・・・・・・・	11～13
	④ 「調べて 作ろう かがくクラブ」・・・・・・・・	14～16
	⑤ 「読んで見つけよう」・・・・・・・・・・・・・・・・	17～19
	⑥ 「卒業後の生活について調べて考えよう」	20～22
4	授業実践以外の実践	
	(1) 公立図書館との連携・・・・・・・・・・・・・・・・	24～25
	(2) PTA 活動と連携した取組・・・・・・・・	26～27
5	実践を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・	28～30

あとがき

2 実践研究の概要について

1 2年次の取組について

2年次は、各教科の授業において図書館の利活用や読書活動を取り入れた授業実践を継続し、実践の拡充を図りました。また、読書環境の充実を図ったり、「読書カード」を活用した児童生徒の読書実態を捉えたりすることに取り組みました。

以下がその成果です。

(1) 児童生徒の実態や授業のねらいを踏まえた上で、授業での支援や学習活動の一部として、図書の活用や読書活動を取り入れることで、主体的に学ぶ児童生徒の姿を引き出すことができ、学びに効果があることを確かめた。

(2) ブックカートや読書コーナーを各フロアに用意し、読書環境の充実を図ったことで、児童生徒



が自分から本を手にとって読んだり、図書を用いて知りたい事柄や情報を調べたりする姿が見られた。

(3) 「読書カード」を活用することで、児童生徒が読んでいる本の種類や冊数の確認及び情報の蓄積がより手軽に行えるようになった。児童生徒の好みや読書の傾向を確かめることができ、授業などで選書する際の参考になった。また、児童生徒の変容を保護者と共に実感したり共有したりするツールにもなった。

成果を確かめた一方で、児童生徒にとって読書がより身近となり、日常生活に結びつくようにすることや、多様な教科等の授業において図書教材の活用を図ることが課題として挙がりました。また、公立図書館との連携を図ることで、より授業における図書館の利活用や読書環境の充実につながるのではないかと考察しました。

そこで、3年次である今年度は、以下の3点について取り組むこととしました。

(1) 作成した「学校図書館利活用計画」に基づいて、更なる実践を重ね、計画を改善すること

(2) 学校周辺の公立図書館との連携を図ること

(3) 校内の読書環境の一層の充実を図ること

(1)については、2年次までの実践を教科等横断的な視点から教育課程に位置付けて作成した、「学校図書館利活用計画」を基に、引き続き読書活動や図書館の利活用を取り入れた授業実践を様々な教科で行ったり、年間をとおして実施したりしていくことに重点を置きました。特に、これまで実践することの少なかった、「生活単元学習」や「総合的な学習の時間」等での利活用を図るようにしました。

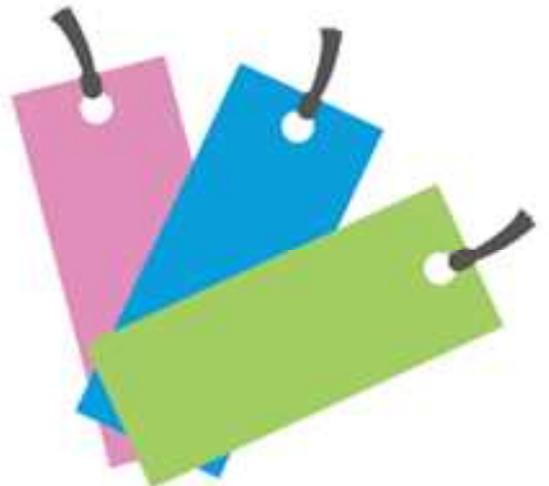
また、(2)については、(1)や(3)の取組と関連させて取り組むこととしました。

(3)については、2年次までの取組の継続・発展として取り組むこととしました。



3

今年度の
授業実践



授業実践①

小学部 国語科「おてがみ どうぞ」

1 実践の概要

本実践は、小学部3年生3名、4年生3名の計6名で授業を行いました。

文字を書くことに興味を持ち始めた子どもたちが、自分の気持ちを言葉で表したり、書字の能力を高めたりすることをねらいとして取り組みました。

手紙について知り、手紙を書く、手紙をもらう、手紙を読むという活動を繰り返し、友だちや先生、家族に手紙を通して、興味のあることや気持ちなどを伝えました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

「てがみ」という言葉が指すものが何なのかを初めて知る児童や、手紙を受け取った経験がない児童がいる中で、手紙とは何なのか、もらうとどんな気持ちになるのかを知るきっかけとして、「てがみ」を題材とした絵本が有効であると考えました。そして、読み聞かせをしたり、読み聞かせた絵本の設定を生かしたりすることで、手紙を書く活動につなげたいと考えました。

(2) 学校図書館司書との連携

手紙を書いたり読んだりするという活動やねらいを司書に伝え、手紙を題材にした絵本について紹介してもらったり、まとめて借りたりしました。また、児童が学校図書館を利用している普段の様子や好みなどを共有し、手紙を題材とした本だけでなく、よく読んでいる本についても用意するようにしました。

(3) 扱った本（図書）について

上記(2)で打合せた事柄を基に、以下の図書を扱いました。

使用図書	選書の理由
『いろいろおてがみ』	・「くるかな くるかな おてがみ くるかな」のフレーズとともに、主人公のわくわくそわそわした気持ちを想像し、手紙をもらう喜びを感じることができると考えたため。
『こんにちは おてがみです』	・実際の封筒などの仕掛けが興味を引き出すことができると考えたため。 ・絵本の設定が、普段、興味を持って読んでいる絵本とリンクしていたため。

単元の後半は、『こんにちは おてがみです』を活用して、それぞれの児童がお気に入りの本の登場人物から手紙を受け取り、返事を書く活動を行いました。封筒から取り出した手紙に自分の名前が書かれていることに少し驚きながらも、子どもたちはとても喜んでいました。教師に、手紙の内容を一緒に読んで教えてほしいとお願いする児童や、「もってかえる！」と大事そうにしまう児童もいました。

返事を書く際には、誰に書いているのが分かるように相手のイラストを貼ったり、自分の好きなことや頑張っていることのイラストや写真を貼って手紙で紹介したりしました。書いた手紙は教師手作りのポストに投函しました。



4年生のBくんは、イラストや写真を手掛かりに、手紙を書く相手や内容を決めました。そして、もらった手紙に書かれていた内容を読み取り、内容に合った返事となるように、書きたい事柄を考えて書く様子が見られました。



5 実践を振り返って

実践後には次のような児童の姿が見られました。

- 自分が書いた手紙（文字）を指さしたり、他学年の友だちや先生に紹介したりする姿が見られた。また、「次はだれに書こうかな」「何て書こうかな」と思いを巡らせる姿も見られた。
- 手紙に興味をもち、家で手紙を書いて持ってきたり、図書館で手紙の相手が登場する同じシリーズの本を借りて読んだりする様子が見られた。

こうした児童の姿は、絵本を通して手紙と出会い、手紙のやりとりを通して、気持ちを文字や言葉にすることで、相手に伝わる良さやうれしさに気付いた姿だと考えます。今後も、子どもたちの言語能力を育て、日常生活につながるような学習を絵本を手立てにしながら展開したいと振り返りました。

授業実践②

小学部 日常生活の指導「げんきな からだ」

1 実践の概要

本実践は、小学部3年生3名、4年生3名の計6名で授業を行いました。

6名の児童は、教師の手本やイラスト等を手がかりに繰り返し活動することで、身の回りのことを一人で進めることができるようになりつつあります。その一方で、手洗いなど、慣れた活動であると、することを忘れていたり、手洗いも指先を濡らす程度になったりして、一つ一つの所作が雑になる姿が見られました。そこで、昨今の感染症流行の状況から、児童が一人できちんと手を洗えるようになる必要があると考え、日常生活の指導で取り上げることとしました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

手洗いやうがいなど、健康な体でいるために必要なことを児童にとって分かりやすく示したり、興味を持って取り組むことができる仕掛けをつくったりすることで、児童が主体的に手洗いができるようになると考えました。そこで、手洗いの仕方や大切さを視覚的に、そして楽しみながら捉えることができるように、読書活動を取り入れて実践することとしました。

(2) 学校図書館司書との連携

活動の目的やねらいを伝え、使用する図書の選定の相談をし、手洗いを題材とした本を紹介してもらいました。また、紹介してもらった本の読み聞かせを依頼し、休み時間に図書館を訪れた際に、読み聞かせをしてもらいました。



(3) 扱った本（図書）について

上記（2）で打合せた事柄を基に、以下の図書を扱いました。

使用図書	選書の理由
『てあらいできるかな』 『ルルロ口のとてあらいだいすき！』 『くろくまくん あわあわてあらい』	・大きな挿絵があり、手洗いをしている様子や動作、手洗いの意味について捉えやすいため。 ・「ごしごし」など、児童が捉えやすい言葉が使われているため。

3 主な学習活動や教材、支援について

(1) 絵本の挿絵の活用

石けんを使って手を洗うことや手の平まで洗うことを意識できるように、流し（教室、廊下、トイレ）に絵本のイラストや手のイラストを掲示するようにしました。



また、使用した絵本の大型絵本を提示したり、挿絵を拡大した手の模型を作成し手の平がわかりやすいようにしたりしました。

(2) 絵本のフレーズの活用

児童が絵本をきっかけに手洗いを自分からできるよう、絵本の中出てきた「ごしごしごし」をキーワードとして、一緒に手を洗う際に言葉をかけたり、「『ごしごしごし』ときれいに洗えましたね」と称賛したりしました。



4 授業の様子

毎朝の登校後の手洗い、そして教室の掃除や係活動を行った後の手洗いに重点をおいて活動しました。そして朝の会で、係の仕事や掃除をがんばったことを振り返る中で、手洗いがしっかりとできていたことや、その時の様子を振り返りました。また、帰りの会や休み時間に絵本の読み聞かせを行い、繰り返し手洗いに取り組んでいくようにしました。

3年生のCさんは、水道に貼った挿絵のイラストをよく見て、手に石鹸をたくさんつけて洗う姿が見られました。また、ばい菌のイラストをひっくり返すと「キラキラきれいになったマーク」に変わる掲示物进行操作することで、手洗いによって手がきれいになることを捉えていきました。



4年生のDさんは、手の模型を操作して、手の平全体をしっかりとすり合わせて洗うことを捉える様子がありました。また、水道に貼った挿絵のイラストを見て、自分でも「ごしごしごし」と声に出しながら手を洗ったり、友だちに、「『ごしごしごし』って洗うよ」と声をかけたりする様子が見られました。



5 実践を振り返って

実践について、助言をいただいた、群馬県立図書館の地域協力系の先生と共に振り返り、児童の姿から次のことを考察しました。

- 絵本を題材とすることで、児童の中にストーリー性が生まれ、手洗いの意味を捉えることができたのではないかな。
- 挿絵を活用したり、読み聞かせを担当や図書館司書が行ったりすることで、関心を高め、絵本のフレーズを声に出しながら活動する姿につながったのではないかな。

今日も児童は毎日の手洗いを丁寧に、楽しみながら行う姿が見られています。何よりも自分から流しへ向かい、指先だけでなく手の平まで洗う姿や、石けんをよく使うようになった姿が増えました。読み聞かせなどはこれまでもクラスの中で行なってきましたが、今回の実践を通して、教科の学習だけでなく、こうした日常的な指導や支援にも有効であることがわかりました。

今後は、余暇を楽しむため、学習を支援するため、日常生活を豊かにするためなどの目的や意図を教師が明確にもって、図書の利用を積極的に取り入れたり、児童が本に触れる機会を増やしたりしていきたいと振り返りました。

授業実践③

中学部 国語科「声に出して読もう」

1 実践の概要

本実践は、中学部2年生6名で授業を行いました。

様々な言葉の意味を捉えたり、登場人物の気持ちを読み取ったりすることをねらいにしました。

捉えた言葉の意味や登場人物の気持ちを基に、読み方を工夫して、群読する学習活動に取り組みました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

授業のねらいとして、言葉の意味を捉えたり、語彙を広げたりしていくことを考えた際に、様々な言葉や豊かな表現に触れることが大切だと感じました。そこで、様々な言葉に触れたり、生徒がそうした言葉と自然に出会ったりすることができるように、図書を活用を考えました。

また、生徒の学習経験や実態から、図書を活用することで、より主体的に言葉を調べたり、自分から声に出したりするのではないかと考えました。

(2) 学校図書館司書との連携

言葉の意味を捉え、語彙を広げるといった授業のねらいを伝えました。また、詩や物語の群読を学習活動の中心として行うことも伝え、面白い表現や言い回し、身近な言葉が出てくる図書を選んでもらいました。

(3) 扱った本（図書）について

上記(2)で打合せた事柄を基に、以下の図書を扱いました。

使用図書	選書の理由
『どうぶつはやくちあいうえお』 『生麦生米生卵(声にだすことば絵本)』 『ことばあそびうた』	•早口言葉や言葉遊び等、生徒が普段の生活では見聞きしない言葉や表現が多く、興味を持って読むことができると考えたため。
『ひみつのがっき』	•楽器を題材としており、身近な楽器が出てくることで、発語が少ない生徒の語彙を広げることができると考えたため。
『スイミー』	•心情や場面の変化が捉えやすい。また、挿絵も美しいので、視覚的にも内容を捉えることができると考えたため。

3 主な学習活動や教材、支援について

(1) 言葉と言葉の関係を捉えながら読む工夫

生徒が言葉と言葉の関係を捉えながら読むことができるように、絵本のページをコピーして、主語や述語に印を付けながら読むように促しました。また、書画カメラを用いてページを拡大表示し、



1つ1つの言葉により注目できるようにしました。

(2) 言葉の理解を深める工夫

言葉の意味を捉えることができるように、動作化を取り入れたり、ペープサートを用いて、場面を再現したりしました。



4 授業の様子

単元の前半は、早口言葉や詩を読んで、様々な言葉や表現に親しみました。ページを拡大して提示したことで、声に出して読むだけでなく、言葉と挿絵とを結びつけながら読む様子が見られ、言葉の意味を捉えていく姿が見られました。

Eさんは、当初、早口言葉を聞いたことはありましたが、並んでいる言葉の意味を捉えていない様子がありました。何度も繰り返し口ずさみ、挿絵と見比べながら読んだりすることで、意味を理解し、「かえるぴよこぴよこむぴよこぴよこの『む』って六匹か！」と発見し、嬉しそうに友だちに伝える様子が見られました。



単元の後半は、『スイミー』の群読に取り組みました。動作化やペープサートの操作を通して、場面の様子を捉えたり、登場人物の気持ちを読み取ったりすることができました。また、こうして内容を読み取ったことで、読み方を工夫し、表現豊かに群読をすることができました。

Fさんは、動作化をしたり、ペープサートを操作したりすることで、登場人物の動きを捉え、動詞の意味に気付いていきました。また友だちと読み取った内容を確認め合う中で、声色や声の大きさを調整して読んだり、「『僕が目になろう』は大きな声で読もうよ」と読み方を提案したりすることができました。



5 実践を振り返って

実践後には次のような生徒の姿が見られました。

- 声に出して読むことに自信がつき、その後の行事などで発表する場面でも、自分から繰り返し原稿を読んで練習したり、大きな声で発表したりできた。
- 授業で扱った本と同じ作者の本を見つけて「レオ・レオニ！」「谷川俊太郎知ってるよ」などと、友だちと伝え合ったり、その本を読んだりするようになった。

こうした生徒の姿は、群読の学習を通して、言葉を声に出すことの楽しさを味わったり、声に出すことで他者に思いが伝わることの良さに気付いたりした姿だと考察しました。また、言葉に着目しながら物語を読んだことで、より内容を理解することができ、関連する本を読む姿につながったのだと振り返りました。

通常の授業の中に、読書活動を取り入れるなど、一工夫を加えることで、生徒の学習活動が充実し、学びにつながる事が確かめられました。生徒が主体的に活動しながら学ぶことができるように、今後も、図書を活用した学習活動を工夫していきたいと考えています。

授業実践④

中学部 総合的な探究の時間

「調べて 作ろう かがくクラブ」

1 実践の概要

本実践は、中学部3年生3名で授業を行いました。

図書を使って調べ学習をする中で、興味を広げたり、情報の集め方を知ったりしながら、自分たちでやりたい活動を決めて取り組むことをねらいとしました。

そして、「かがく遊び」を探究課題として設定し、本を使って調べた科学実験を行う学習活動を展開しました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

生徒が、自分から調べたいことや活動を決めて探究活動を進めてほしいと考えました。生徒の「こんな実験がしてみたい」という思いを基に学習を進めていくために、図書をきっかけにしたり、図書を用いた調べ学習を行ったりすることが有効であると考えました。

(2) 学校図書館司書との連携

学校図書館司書の先生に、かがくあそび(実験)をするという主活動を伝えるとともに、生徒の実態や図書を取り入れる目的、生徒にどのように情報を読み取ってほしいかを伝え、本を探してもらい、借りました。

その際、県立図書館で借りるのもよいのではと助言を受け、団体貸出しの利用を検討しました。

群馬県立図書館の地域協力系の先生と打合せを行い、改めて授業のねらいや活動を伝えました。そして、学習支援図書セットを2セット借り、授業に取り入れました。

さらに、授業や生徒の様子を見てもらう中で、より簡潔でイラストや写真の多い本はないか相談して、本を再度選定し、提供してもらったり、授業改善の助言を受けたりしました。

(3) 扱った本(図書)について

上記(2)で打合せた事柄を基に、以下の図書を扱いました。

※全部で90冊以上を借り、生徒の実態や様子から、次の本を主に扱うこととしました。

使用図書	選書の理由
『食べ物実験レシピ』 『ワクワク！かわいい！自由研究大じてん』 『小学生のキッチンでかんたん実験60』 『かがくのとも』 『かがくあそび ふしぎをためす図鑑』	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒がこれまで経験したことのある実験や食べ物の実験など、関心を高めるために有効だと考えたため。 • 文字に加え、写真や図などを多用して、色々な実験が紹介されており、生徒がやりたい実験を見つけ、本を手掛かりに活動を進めることができると考えたため。

3 主な学習活動や教材、支援について

(1) 課題を見つけるための図書の活用

Gさんは、当初、タブレット端末でインターネットを用いてやりたい実験を調べていました。そこでは、ずっと「スライム」を調べる姿がありました。しかし、隣でHさんが本で調べているのを見て「これ面白そう」とシャボン玉の実験を見つけました。そのような姿から、興味の幅が広がるように、改めて別の本を紹介するようにしました。また、本の表紙が見えるよう、「面出し」したり、一部のページを開いたりして提示しました。



(2) 本の情報を生かした教材の工夫

Iさんは、興味のある実験を見つけることはできましたが、一度に全ての材料を入れてしまうため、実験がうまくいかない様子もありました。そこで、参考にしている本の情報や写真を切り取り、手順表のようにして活用しました。



4 授業の様子

Hさんは、本を手掛かりに、道具を準備したり、手順を確かめたりしながら活動を進めることができました。また、本に書かれている言葉を引用して、「Gさん、次は『水を20cc入れます』よ」などと友だちに声をかけ、一緒に活動を楽しむ姿が見られました。



Iさんは、本を読んで興味のある活動を見つけ、教師と一緒にやり方を確かめながら活動を進めていきました。コピーした本に印をつけたり、手順表のように教材化することで、自分から必要な情報を見つけ、徐々に1人で実験を進めることができるようになっていきました。



5 実践を振り返って

実践について、助言をいただいた、群馬県立図書館の地域協力係の先生と共に振り返り、生徒の姿から次のことを考察しました。

- 図書を用いた調べ学習というだけでなく、「課題を見つける」「手順表のように使う」など、実態に応じて、活用の仕方を変えたことで、生徒が主体的に実験を行い、楽しむことができた。
- 本から活動が広がったが、失敗したときに本の内容や文章に戻る指導や支援をしたり、インターネットなどのメディア利用も視野に入れて、併用したりしていくことも探究活動や、これからの生徒の自立のために必要である。

図書を授業で活用するだけでなく、普段の生活における情報活用やメディア利用につながるよう、今後も活動内容を工夫していきたいと考えました。

授業実践⑤

高等部 国語科「読んで見つけよう」

1 実践の概要

本実践は、高等部2年生6名で授業を行いました。

言葉に着目して読み、内容を捉えたり、文を読んだ感想や考えを持ったりする力を高めることをねらいとしました。

物語を読み、読み取ったことを基に、あらすじやお気に入りの場面、感想を「本のポップ」としてまとめ、友だちに伝える学習活動を行いました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

生徒は写真や挿絵に着目しながら読むことが多く、自分から文の内容を理解するまでじっくりと読むことは少ないので、文を読んで内容を捉えることが課題でした。こうした実態や課題から、生徒が自分から言葉に着目したり、主体的に読んだりするために、読む目的が大切だと考え、本を読んだ感想や考えを「本のポップ」にして友だちに伝える活動を設定することとしました。

(2) 学校図書館司書との連携

生徒が本のポップのイメージを持てるように、学校図書館にある本のポップを紹介してもらうようにしました。

図書の選定にあたっては、授業のねらいを伝えるとともに、「生活に近い題材であること」、「場面設定や場面展開が分かりやすいこと」、「使用されている言葉が簡易なこと」の3点を重視して一緒に選書をしました。



(3) 扱った本（図書）について

上記(2)で打合せた事柄を基に、以下の図書を扱いました。

使用図書	選書の理由
『おばけいしゃ』	• 生徒の実態や興味や関心を基にしながら、物語の内容を捉えやすい本を用いることにしました。 • 場面展開がわかりやすく、比較的平易な言葉を使用している本を選びました。
『くるま かします』	
『かさじぞう』	
『アラジンと魔法のランプ』	
『シンドバットの冒険』	
『エリック・カールのイソップものがたり』	

3 主な学習活動や教材、支援について

(1) 挿絵と叙述を結びつけながら読む活動

生徒が言葉に着目したり、挿絵と結びつけたりしながら読むことができるように、絵本の読み聞かせを行い、その後、挿絵を並べ替える活動を行いました。挿絵と関連する言葉やキーワードとなる言葉に印をつけながら読むようにすることで、物語の流れや内容を想起しながら、挿絵を並べ替える様子が見られました。

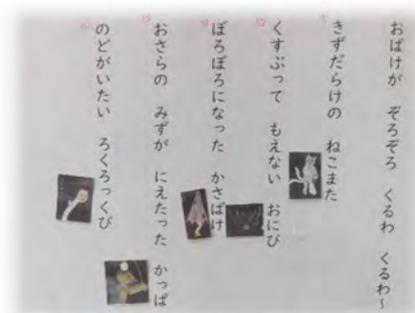


(2) 個に応じた教材の工夫

本を読んだ感想を即時的に残すことができるように、絵本のページのコピーを用意し、感想を付箋紙に書いて貼るようにしました。

別の生徒には、言葉の意味や区切りを捉えることができるように、本文を分かち書きした文章を用意しました。

また、ある生徒には、本の内容をタブレット端末で示した自作のデジタル教材を提示しました。このようにして、それぞれの生徒が言葉の意味や物語の内容を捉えながら読むことができるように工夫しました。



4 授業の様子

単元の前半は、挿絵の並べ替えを行ったり、気に入った本のあらすじを友だちと紹介し合ったりしました。こうしたことで、挿絵と本文中の言葉を結びつけ、場面や登場人物の動きを読み取ることができるようになっていきました。

Jさんは、場面ごとに読み取ったことを付箋紙に書いて整理することで、場面の様子や、出来事を捉えていきました。そして、付箋紙を手掛かりにしながら、あらすじを紹介することができました。



単元の後半は、それぞれが選んだ本をじっくりと読み、友だちに内容やおすすめの場面を紹介するために、本のポップ作りを行いました。ポップは四角いポップや三角柱など、様々な形状を用意し、生徒が自分で選べるようにしました。



Kさんは、紙媒体よりもデジタルの方が馴染みがあり、本人も扱いやすいことから、タブレット端末に取り込んだ本の文章を読むようにしました。画面上で場面や登場人物の動きを表す言葉に印を付けながら読みました。こうすることで、内容を捉えていき、面白いと思った場面を、ポップに表すことができました。

Lさんは、実態からデジタル教材を活用することで、より内容に着目できると考え、教師が自作したデジタル教材を使用しました。画面に触れてページをめくったり、挿絵や本文を拡大したりしながら、内容を捉えていきました。言葉や文を読み、内容に合う挿絵やイラストを選んでポップに表すことができました。



完成したポップとポップで飾り付けたブックカート



5 実践を振り返って

実践後には次のような生徒の姿が見られました。

- 図鑑やガイドブックなど、写真が多く載っている本を好んで読んでいた生徒が、完成したポップをきっかけに、友だちが紹介した本を読む姿が見られた。

こうした姿は、ポップ作りを通して、言葉に着目したり、文を読んだ感想や考えを持ったりすることができた姿だと考察しました。高等部では卒業後に自分で情報を調べたり、考えたりする力が必要になると思うので、今後も言葉を手掛かりにして学ぶ機会を大切にしたいと振り返りました。

授業実践⑥

高等部 生活単元学習

「卒業後の生活について調べて考えよう」

1 実践の概要

本実践は、高等部2年生6名で授業を行いました。

卒業後の生活の見通しを持ったり、これからの学校生活での目標を決めたりすることをねらいに、進路学習の一環として、卒業後に就きたい仕事を調べました。

調べ学習をする際に、図書やメディアを使い分けることもねらいとし、様々な情報媒体を用いて調べることにしました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

生徒はこの単元実施前の国語科の学習において、本のポップ作りに取り組みました(授業実践⑤)。その中で、挿絵と叙述を結び付け、キーワードに着目して読み、内容を読み取ることを学習しました。こうした学びを生かすことが大切と考え、図書を活用した授業を行うことにしました。また、単元名にもあるように、卒業後の生活を見据え、様々な情報媒体から情報を得たり、内容を判断したりする力を高めたいと考え、図書や情報媒体を使った調べ学習を行おうと考えました。

(2) 学校図書館司書との連携

学校図書館司書の先生に、主活動と授業のねらいを伝え、蔵書の中から、職業や仕事に関する本を借りました。

加えて、群馬県立図書館でも同様の相談をしたところ、「調べる内容に関する本だけでなく、調べ学習をするための本もあるとよい」との助言を受け、学習支援図書セットの中から、職業に関するシリーズ本や調べ学習の方法についての本を団体貸出しを利用して借りました。また、何度か授業を参観していただき、実際の活用や生徒の様子を見てもらい、授業改善の助言を受けました。

(3) 扱った本(図書)について

上記(2)で打合せた事柄を基に、以下の図書を扱いました。

また、必要に応じて、雑誌や、生徒が現場実習でお世話になった事業所のパンフレットなども活用しました。

使用図書	選書の理由
『新 13 歳のハローワーク』 『しごとば』 『仕事のくふう、見つけたよ』 『職場体験完全ガイド』 『キャリア教育支援ガイドお仕事ナビ①』 『アクティブ・ラーニングで身につく発表・調べ学習2』 『群馬の美味しいパン屋さん』	<ul style="list-style-type: none"> •生徒がこれまで現場実習で経験した仕事内容にかかわる本を扱うことで、より卒業後のイメージを持てると考えたため。 •興味や関心、事前の生徒への聞き取りから、仕事を取り上げた本を選ぶようにした。

3 主な学習活動や教材、支援について

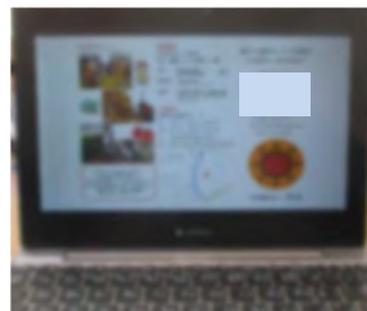
(1) 様々な情報媒体の提示と活用

生徒が多様な情報媒体から情報を得ることができるように、借りてきた図書、雑誌、事業所のパンフレットなどを提示しました。また必要に応じてパソコンやタブレット端末なども用いるようにしました。さらに、これまでに生徒が行ってきた作業学習や産業現場等の実習についてまとめた「作業ファイル」も調べ学習の資料として活用するようにしました。



(2) デジタル教材の活用

生徒が情報媒体を使って調べる力に応じて、教材を工夫しました。特に、視覚情報を限定し端的な言葉の方が内容を捉えやすい生徒には、興味のある事業所のパンフレットをデジタル化し、イラストや写真を加えたり、振り仮名を振ったりした資料を提示しました。



4 授業の様子

Mさんは、当初は、タブレット端末のみで調べる様子がありました。図書資料について紹介すると、見比べるようにして調べ始め、本を見て気になったことをタブレット端末に入力してインターネット検索するようになりました。また、雑誌を見ながら、気付いたことをワークシートに書き込む様子も見られました。



Nさんは、デジタル教材を手掛かりに調べました。当初はパンフレットや図書資料等の写真にのみ着目していましたが、デジタル教材として、パンフレットを教材化することで、知りたい情報を拡大してよく見たり、ワークシートに書き留めたりして、卒業後にしたい仕事について調べることができました。



5 実践を振り返って

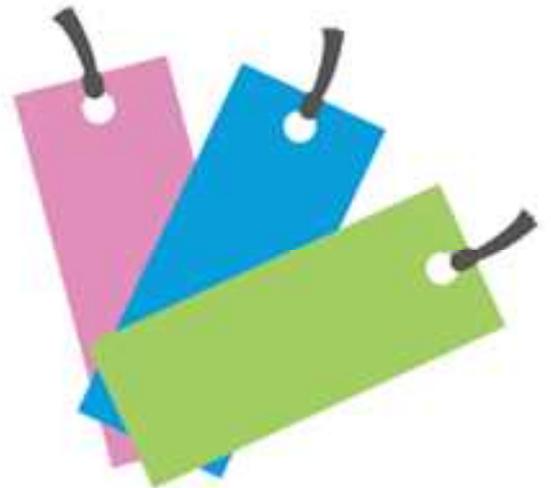
実践について、助言をいただいた、群馬県立図書館の地域協力系の先生と共に振り返り、生徒の姿から次のことを考察しました。

- それぞれの生徒が図書資料だけでなく、ファイルやパンフレットなど様々な資料をよく見て調べていてよかった。教材化することで活用もできていた。一方で、メディアの良さや違いを捉えることができるように、比較をしたり、行きつ戻りつしたりして学習していくことが大切だろう。
- 卒業後には自分から情報にアクセスしていく力が必要になる。自立に向けたメディアリテラシーを育成していく視点も重要ではないか。

図書の活用を通して、生徒が多様なメディアに触れることができました。今後は、卒業後の生活で活用していくことを念頭においた、資料の提示や活用の仕方を指導したり支援したりできるようにしていくことが必要だと振り返りました。

4

授業実践
以外の実践



公立図書館との連携

1 団体貸出しなどの仕組みを利用した連携

公立図書館との連携の1つとして、群馬県立図書館と連携しました。本校が附属小学校と共用している学校図書館の蔵書や環境は充実しています。しかし、本校の児童生徒は、小学部1年生から高等部3年生までと幅広く、実態も様々であることから、蔵書や種類等を補うために、連携が必要だと判断しました。具体的には無償譲渡の仕組みを利用して、校内の蔵書を増やすようにしました。また、団体貸出しの利用も始めました。団体貸出しの利用に際しては、予定している授業や、具体的に図書の活用を見据えている授業について、本校内で昨年度作成した「学校図書館利活用計画」を基に打ち合わせるようにしました。こうすることで、授業における利活用が更に充実しました。また、団体貸出しを利用することで、ジャンルや内容の同じ図書を複数冊用意することができ、修学旅行の事前事後学習や国語の俳句の授業などにも活用できました。



修学旅行の事前事後学習及び当日の様子

群馬県の郷土や文化に関する本や旅行雑誌を借りて、群馬県の魅力を知ったり、行きたいところを考えたりしました。そして、雑誌等で調べたことを基に、活動の計画を立てました。当日は調べたお店を見つけ、思い出を作ることができました。

2 授業づくりにおける連携

群馬県立図書館と授業づくりにおける連携もしました。団体貸出しを利用した際に、授業について相談したり、実際に図書を活用した授業を見てもらったりして、授業の改善点についての助言をもらいました。また、校内研究授業と授業研究会を行った際にも、指導助言者として参加していただき、本校がこれまで取り組んできた実践について共有しながら、今後の実践の継続や発展に向けたアドバイスをいただくことができました。



授業についての打合せをしている様子

3 読書環境の充実に向けた連携

昨年度から取り組んでいる、読書環境の充実に向けても連携をしました。群馬県立図書館の無償譲渡と団体貸出しに加え、前橋市立図書館とも連携しました。中学生や高校生の読書を一層促すことを目的に、より実態に即した図書として、配架を終了したスポーツ雑誌や文化誌等を寄贈していただきました。

寄贈していただいた雑誌は、表紙が見えるようにブックカートに配架し、各フロアに設置しました。こうすることで、休み時間に雑誌を手にとって読む姿が見られたほか、クラブ活動等でも積極的に活用する姿が見られるようになりました。



配架した雑誌と、クラブ活動の様子

スポーツに関する図書や雑誌を配架しました。中学部のクラブ活動「スポーツクラブ」では、雑誌等を手掛かりに、みんなで楽しみたいスポーツを相談したり、技を調べたりするなど、休み時間の読書に加え、学習活動での利活用につながりました。

4 今後に向けて

公立図書館と連携することで、校内の蔵書が増え、読書環境の一層の充実につながりました。また、授業における図書の利活用も拡充し、授業づくりについての相談や改善等も行うことができました。このことは、図書館の持つ、「読書センターの機能」の利活用だけでなく、「教員のサポート機能」を利活用することもできたと考えられます。

今回の連携にあたっては、本校が公立図書館と立地的に近いという優位性を生かすことができました。連携した実践を行ったことで、その良さを確かめることができたので、今後は、年度初めに「学校図書館利活用計画」を共有し、更なる実践の充実と読書環境の整備を継続していくために、連携を深めていきたいと考えています。

P T A活動と連携した取組

1 読書環境の充実に向けた連携

昨年度より、「実態に応じた読書」の推進として、児童生徒の実態に即した蔵書を増やすことに取り組んでいます。具体的には、発達段階や、社会生活年齢に即した蔵書として、小学部児童には絵本や紙芝居、中学部、高等部の生徒には、図鑑や雑誌等を配架することです。本校の保護者に、実践研究の目的やこれまでの取組を伝えながら、こうした「実態に応じた読書」を推進するために、家庭で読み古した雑誌の寄付を呼びかけ、公立図書館からの寄贈を補うようにしました。

呼びかけを行った翌日から雑誌の寄付が集まりました。旅行雑誌や料理・グルメ本、スポーツ雑誌から専門誌まで幅広く寄付が寄せられました。中には、絵本なども寄付して下さった家庭もありました。

こうした雑誌や本は、ブックカートを用いて、各フロアに配架しました。配架するとすぐに、休み時間に手に取って読む、児童生徒の様子が見られました。



2 読み聞かせ動画の配信

雑誌の寄付に加え、本校の学校HP上で、保護者の読み聞かせ動画を配信することに取り組みました。

まず、各家庭に読み聞かせをしてもらいたい本のアンケートをとりました。そして、集計した中から、著者や出版社の許諾を得られた本や紙芝居について読み聞かせ動画を撮影し、学校HP上で児童生徒と保護者に向けて限定公開としました。公開は長期休業中とし、家庭で読書に親しんだり、読書をするきっかけになったりすることを期待しました。

動画の撮影では、保護者間で役割を分担したり、どんな風に読むと面白さや魅力が伝わるかを相談して決めたりしました。

撮影が終わる頃には、保護者から「楽しかったね」「見てもらえるといいですね」などの感想が聞かれ、充実感を共有することができました。



読み聞かせ動画撮影の様子

大型絵本や紙芝居の読み聞かせ動画を撮影しました。役割を相談したり、読み方の工夫を話し合ったりして進め、面白さが伝わるように読みました。

3 取組を振り返って

読書環境を整備したことで、スポーツ雑誌を読んだ生徒が、休み時間やクラブ活動でバスケットボールをするようになったり、グルメ雑誌等を見ながら「これ食べたいね」「どこにあるのかな」などと、雑誌から得た情報を基に友だちと会話したりする姿も見られるようになりました。こうした姿から、「実態に応じた読書」を推進するための、読書環境の整備や、図書を選書、準備が必要なことを確かめました。

また、配信した読み聞かせ動画を見た保護者からは、「動画があって（余暇を過ごせて）良かったです」「（子どもが）好きな絵本だったので何回も見ていました」などの感想が聞かれました。

今年度は、コロナ禍ということもあり、PTA 活動が限定されました。そうした中で、今回のように、PTA 活動と関連付けて実践ができたことは、本校の実践研究に保護者が参画し、取組を共有することとなり、とても大きな成果であると考えます。今後も保護者の理解と協力を得ながら、PTA 活動の1つとして位置付けていくことで、この実践研究の成果を継続していくことにつながると考えています。

※読み聞かせ動画の配信については、事前に使用する本や紙芝居とその目的を出版社に伝えるとともに、学校 HP 上で児童生徒・保護者を対象にした、「限定公開」という形で許諾を得ました。著作権の関係上、どの本や紙芝居を読み聞かせたか、掲載しておりませんが、上記のような経緯があつての実践となりますので、ご了承下さい。

関係した出版社やご担当者様に御礼申し上げます。

5 実践を振り返って

1 「学校図書館利活用計画」を基に実践した成果

「学校図書館利活用計画」に基づいて、実践を重ねたことで、次のような成果を確かめました。（※計画については、次ページ見開き参照）

「学校図書館利活用計画」：本校の教育課程に図書館の利活用を位置付けた計画

- 小学部で行った実践をピンク色、中学部で行った実践を黄色、高等部で行った実践を水色、中学部と高等部で共通した実践（作業学習等）は緑色で示し、そのほか、新たに取り組んだ実践については、実践名を太字で示している。

- 計画があることで、2年次までの実践の積み重ねが可視化され、利活用の少なかった時期や実践にスポットを当てて、授業実践を行うことができた。
- 計画を不断に見直すことで、授業実践以外にも、行事やPTA活動と関連させた実践を行うことができた。
- 具体的な計画があることで、教師内で利活用のタイミングや目的が共有され、図書館を訪れて本を選んだり、授業に図書の利用を取り入れたりする機会が増えた。
- 校内の図書館に加え、公立図書館とも計画を介した具体的な連携ができた。

今年度の大きな成果として、「学校図書館利活用計画」に基づいて実践が充実したことを確かめました。特に、計画を介して、群馬県立図書館と連携したことで、総合的な学習の時間や生活単元学習等、校内の蔵書のみでは図書の利活用が限られていた実践についても行うことができ、学習活動が充実しました。

また授業実践が充実したことで、児童生徒の言語能力の変容も確かめることができました。

図書を活用して「手紙」について知った小学部の児童は、文字にすることで気持ちが伝わることに気付き、自分から家族や友だちに手紙を書く姿が見られるようになりました。中学部の生徒は、様々な俳句や短歌を収めた本を読んだことで語彙が広がり、修学旅行の思い出を表現豊かに俳句で表すことができました。高等部の生徒は、キーワードに着目して内容を読み取りPOP作りや調べ学習を行ったことで、他の場面でも、キーワードを用いて必要な情報を検索し、情報を得る様子が見られるようになりました。



令和2年度 学校図書館利活用計画

目標：発達段階に応じた学習と図書館の利活用とを結びつけることで、児童生徒の個に応じた言語能力を継続的に育成することを目指す

学校行事等	・始業式 ・入学式	・就業体験 ・授業公開	・ふようまつり ・音楽鑑賞教室	・公開研究会 ・ウーエグ・ジョグ大会	・就業体験 ・卒業を祝う会
学部・HR行事等	・新入生歓迎会 ・図書館オリエンテーション ・勢多農交流	・身だしなみ講習会・宿泊学習 ・アピリンピック	・勢多農交流 ・特体連	・修学旅行 ・勢多農交流 ・学習発表会 ・附小との作業交流	・卒業式 ・修了式 ・教育フェスタ
学校保健	自分の体の理解と健康づくり	体の鍛錬と健康で安全な生活づくり	体の鍛錬と健康で安全な生活づくり	健康で安全な生活の維持	
道徳教育	礼儀	勤労	信頼、友情	相互理解、寛容	よりよく生きる喜び 生命の尊さ 家族愛、家庭生活の充実 公平、公正、社会正義

教科等	指導期間① (4/8~5/12)	指導期間② (5/13~6/9)	指導期間③ (6/10~8/25)	指導期間④ (8/26~10/8)	指導期間① (10/9~11/4)	指導期間② (11/5~1/6)	指導期間③ (1/7~2/2)	指導期間④ (2/3~3/16)	関連する経験場面
「作業学習」	「農園／ハーバリウム」 「喫茶サービス」 「箱折り」「カルトナージュ」 「ビルクリーニング」	「第1回就業体験」	「農園／ハーバリウム」 「喫茶サービス」 「箱折り」「カルトナージュ」 「ビルクリーニング」	「農園／ハーバリウム」 「喫茶サービス」 「箱折り」「カルトナージュ」 「ビルクリーニング」	「農園／ハーバリウム」 「喫茶サービス」 「箱折り」「カルトナージュ」 「ビルクリーニング」	「農園／ハーバリウム」 「喫茶サービス」 「箱折り」「カルトナージュ」 「ビルクリーニング」	「喫茶サービス」 「第2回就業体験」	「農園／ハーバリウム」 「喫茶サービス」 「箱折り」「カルトナージュ」 「ビルクリーニング」	新入生歓迎会 宿泊学習 校外学習 修学旅行 学習発表会
	調べ学習（花等）	就業体験中の休憩室用のブックカード	調べ学習（花等）	調べ学習（花等）	調べ学習（花等）	調べ学習（花等）	就業体験中の休憩室用のブックカード	調べ学習（花等）	
「生活単元学習」	「新入生歓迎会に向けて」	小：「〇〇であそぼう」	中「修学旅行に向けて」 調べ学習（群馬・前橋） 小「修学旅行に行こう」 小「野菜をそだてよう」 調べ学習（前橋・草花）	高「修学旅行に向けて」 調べ学習（群馬・沖縄） 小・中：「ふようまつり」 小：「〇〇パーティーをしよう」 調べ学習（調理・工作）	高「修学旅行に向けて」 高「卒業後にに向けて」 中：「調理をしよう」 小「あきとあそぼう」	高「自立した生活に向けて」 中：「学習発表会の準備」 小「はっぴょうかいをしよう」	高：「卒業に向けて」 小：「きいてつたえてそだてよう」 中：なし	高：「卒業式に向けて」 高：「卒業後の生活について調べて考えよう」 小中高卒業を祝う会に向けて 小「げんきなからだ」	勢多農交流 附小との作業交流 ふようまつり 教育フェスタ アピリンピック 朝の活動
「日常生活の指導」									

「国語」	「〇〇〇〇（仮）」 高：書くこと 中：聞く・話す 小：聞く・話す		「〇〇〇〇（仮）」 小：書くこと 「おてがみ どうぞ」 中：聞く・話す 高：なし	「〇〇〇〇（仮）」 高：読むこと 「読んで見つけよう」 中：書くこと 小：なし	「〇〇〇〇（仮）」 中：読むこと 「俳句」 小：読むこと 「おはなししようかいしよう」	「〇〇〇〇（仮）」 高：聞く・話す 中：読むこと 「声に出して読もう」 小：なし	「〇〇〇〇（仮）」□ 小：書くこと 「思い出をふりかえろう」 中・高：なし	「〇〇〇〇（仮）」 中：読むこと 小・高：なし	新入生歓迎会 ふようまつり 修学旅行 学習発表会 就業体験
「算数」「数学」	中：数と計算・測定 小・高なし	小「ならべようかぞえよう」 中・高：なし	「〇〇〇〇（仮）」 高：数と計算 中：数と計算 小：なし	「〇〇〇〇（仮）」 中：数と計算 小：図形 「みつけよういろいろなかたち」 高：なし	「〇〇〇〇（仮）」 高：図形 中：測定 小：なし	「〇〇〇〇（仮）」□ 中：測定・図形 小：測定 高：なし	「〇〇〇〇（仮）」 高：データの活用 小・中：なし	「〇〇〇〇（仮）」□ 高：データの活用 中：図形 小：データの活用	ふようまつり 校外学習 修学旅行 学習発表会 就業体験
「音楽」	「〇〇〇〇（仮）」 中・高：歌唱 小：「おとをたのしもう」	歌唱・器楽 中・高：なし	「〇〇〇〇（仮）」 高：歌唱・身体表現 中：器楽 小「リズムにのろう」	「〇〇〇〇（仮）」 高：器楽・歌唱 中：身体表現 音楽づくり・身体表現	「〇〇〇〇（仮）」 高：器楽・創作 中：歌唱 小：音楽づくり・身体表現	「〇〇〇〇（仮）」 高：器楽・創作 中：音楽作り	「〇〇〇〇（仮）」 高：歌唱 小：歌唱・器楽	「〇〇〇〇（仮）」 高：器楽・歌唱 中：身体表現	儀式的行事 学習発表会 音楽鑑賞教室
「図工」「美術」	「〇〇〇〇（仮）」 高：平面作品（絵の具） 中：描画 小「いろいろあそぼう」	中・高なし 絵の具遊び	「〇〇〇〇（仮）」 高：立体作品（紙） 中：工芸 小「つんでつなげているいろいろなかたち」 立体・工作	「〇〇〇〇（仮）」 高：立体作品（粘土） 中：デザイン	「〇〇〇〇（仮）」 高：平面作品（布） 中：描画 「はじいて描こう」 小：自然の素材を使った工作	「〇〇〇〇（仮）」 高：立体作品（木材） 中：彫造	「〇〇〇〇（仮）」 高：平面作品 中：なし	「〇〇〇〇（仮）」 高：平面作品 中：工芸 小：「あわせて つくろう」	ハートフルアート展
「体育」「保健体育」	体づくり運動 中：陸上 中：保健「けがの予防」	小「とぼうはしろう」走・跳 中・高：なし	水泳・プール 中：器械運動 「跳び箱をしよう」 小：ボール 高：体育理論	高：陸上・球技 中：陸上 小：表現・短距離 中：保健「体の発達」	高：器械運動・球技 中：ダンス 小：走・跳	高：ダンス 中：球技 小：ボール 中・高：保健	高：ダンス 小：器械・器具 中：なし	高：武道 中：陸上・武道 小：「げんきなからだになろう」	校外ジョギング 特体連 ウォーキング・ジョギング大会

「自立活動」	1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握 5 身体の動き 6 コミュニケーション	これらの内容について、学校の教育活動全体を通じて目標の達成を図る。	1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握 5 身体の動き 6 コミュニケーション	これらの内容について、学校の教育活動全体を通じて目標の達成を図る。	PTA活動 ・読み聞かせ動画の配信 ・雑誌の提供
--------	---	-----------------------------------	---	-----------------------------------	--------------------------------

「総合的な探究の時間」	「勢多農交流に向けて」 「就業体験に向けて」 「地域の公園を整備しよう」		「地域の公園を整備しよう」 「身だしなみを整えよう」 「サツマイモ交流」	「勢多農交流に向けて」 「ふようまつりに向けて」 「職業選択に向けて」 「群馬について知ろう」	「地域の公園を整備しよう」 「季節の行事を知ろう」 「地域のお祭りに参加しよう」 「日本のことを知ろう」	「作業交流に向けて」 「勢多農交流に向けて」 「選挙について知ろう」 「学習発表会に向けて」	「選挙について知ろう」 「選挙管理委員会の役割を知ろう」 「クラブ活動」 スポーツクラブ・かがくクラブ	
-------------	--	--	--	--	---	---	--	--

2 公立図書館との連携、読書環境の充実を図った成果

公立図書館との連携や、読書環境の一層の充実を図ったことの成果を確かめました。

- 団体貸出しを利用することで、授業における利活用が更に充実した。
- 団体貸出しの際に、授業について相談し、改善の検討をすることができた。
- 雑誌を配架したことで、中学部や高等部の生徒が、休み時間に手に取って読む機会が増え、「実態に応じた読書」を推進することができた。

授業で使用した図書をブックカートに乗せて各フロアに配架する読書環境の充実は、昨年度までも取り組んできました。今年度は更にその取組を拡充し、公立図書館と連携して、無償譲渡や団体貸出しの仕組みを活用した校内の蔵書の充実に取り組みました。こうして読書環境が充実したことで、日常的な読書機会が増えました。また、譲渡や寄付により、雑誌を配架したことで、中学生や高校生を対象とした読書環境も充実しました。このことは、年齢が上がるにつれて、図書館の利用や読書の時間が少なくなっている本校の状況を改善し、昨年度より目指していた「実態に応じた読書」が推進されました。

公立図書館との連携は、授業における利活用にも大きな効果がありました。特に授業の検討をともに行なったことについては、図書館の持つ、教員のサポート機能を利活用したと言えます。群馬県立図書館と本校の立地等の強みを生かした実践にもなりました。

3 今後の展望

3年間、実践を積み重ねてきたことで、授業における図書の利活用の工夫や教材の工夫、図書館司書や公立図書館との連携について、どのように行っていくとよいかを明らかにすることができました。こうした成果を生かしながら、次のことに取り組んでいきたいと考えています。

- 公立図書館との連携や読書環境の充実に向けた取組を継続すること
- ICT機器の活用や教材化など、児童生徒の実態に合わせて活用の仕方を工夫していくこと
- 図書とメディアの併用や、メディアリテラシー等について留意していくこと

実践の継続、公立図書館との連携をベースとしながら、個々の実態に応じた取り入れ方や活用の仕方を模索し、読書活動や図書館の利活用が目的ではなく手段となるようにしていくことが大切だと考えています。また、児童生徒が今後生きていく社会は、多様なメディアや情報に溢れた社会となることが容易に想像できます。そんな中でも、図書（本）だけでなく、多様な情報媒体を活用し、主体的に情報にアクセスしていくために、メディアリテラシーの力をつけていくことも重要であると考えます。

今後も知的障害特別支援学校における学校図書館の利活用や読書活動の充実についての取り組みを絶えず続けていきたいと考えています。



あとがき

3年計画のまとめとなる今年度の実践研究を進めていくにあたり、引き続き、新潟大学教育学部 足立幸子 准教授に多大なるご指導をいただきました。また、子どもの学びを一層深め、学んだことを地域社会へと広げていくために、群馬県立図書館の早川留美子 地域協力係長 並びに 福島正芳 指導主事にご助力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、当初計画を大きく見直すことを余儀なくされました。残念な思いはありましたが、計画を見直す中で教職員一人一人が、読書活動の充実を軸として、教科等横断的視点でカリキュラムを見直す経験を得たことは、本校教職員の指導力向上に資することとなりました。

特別支援学校における教科等の学習への図書館機能の活用について、手探りの状態から研究をはじめ、試行錯誤しながら実践を重ねて参りました。実践をとおして、子どもたちが図書を手にする機会が大きく増えたこと、保護者の方々が家庭での読書活動に一層積極的になったこと、そして教職員がICT機器も含めて子どもの実態に応じた創意工夫を行うようになったこと、これらの成果を実感しております。

多くの方からのご指導ご助言があり、ここに実践研究をまとめることができました。心より感謝申し上げます。

群馬大学共同教育学部附属特別支援学校 副校長 須田 雅人

令和2年度 実践報告 3年次

特別支援学校における教科等の学習への図書館機能の活用と読書活動の充実に関する研究

発行日 令和3年3月26日

編集責任者 須田 雅人

発行者 藤森 健太郎

発行所 群馬大学共同教育学部附属特別支援学校

前橋市若宮町二丁目8番1号

TEL:027-231-1384

印刷 上武印刷株式会社

TEL:027-352-7445